

平成 29 年度自転車安全点検全国普及活動事業報告

安全・快適な自転車利用を促進するための事業は昭和 42 年(1967 年)から続いています。

(一財)自転車産業振興協会は日本自転車軽自動車商協同組合連合会(日商連)と日商連傘下の 44 都道府県自転車商協同組合の協力を得て、日常使用している自転車の点検・整備の促進を図るため、自転車の点検事業と講習会を実施しました。

平成 29 年度においては、拠点型と店舗型を併せて自転車 370,826 台を点検し、424 会場で講習会を実施しました。

「店舗型安全点検」は日商連傘下組合員の 1,541 店舗において、32,341 台を点検しました。実施している自転車小売店はのぼり旗を掲げ来店を促しました。点検後は使用している自転車の状態を実施伝票に記入して、利用者に点検整備の励行を働きかけました。

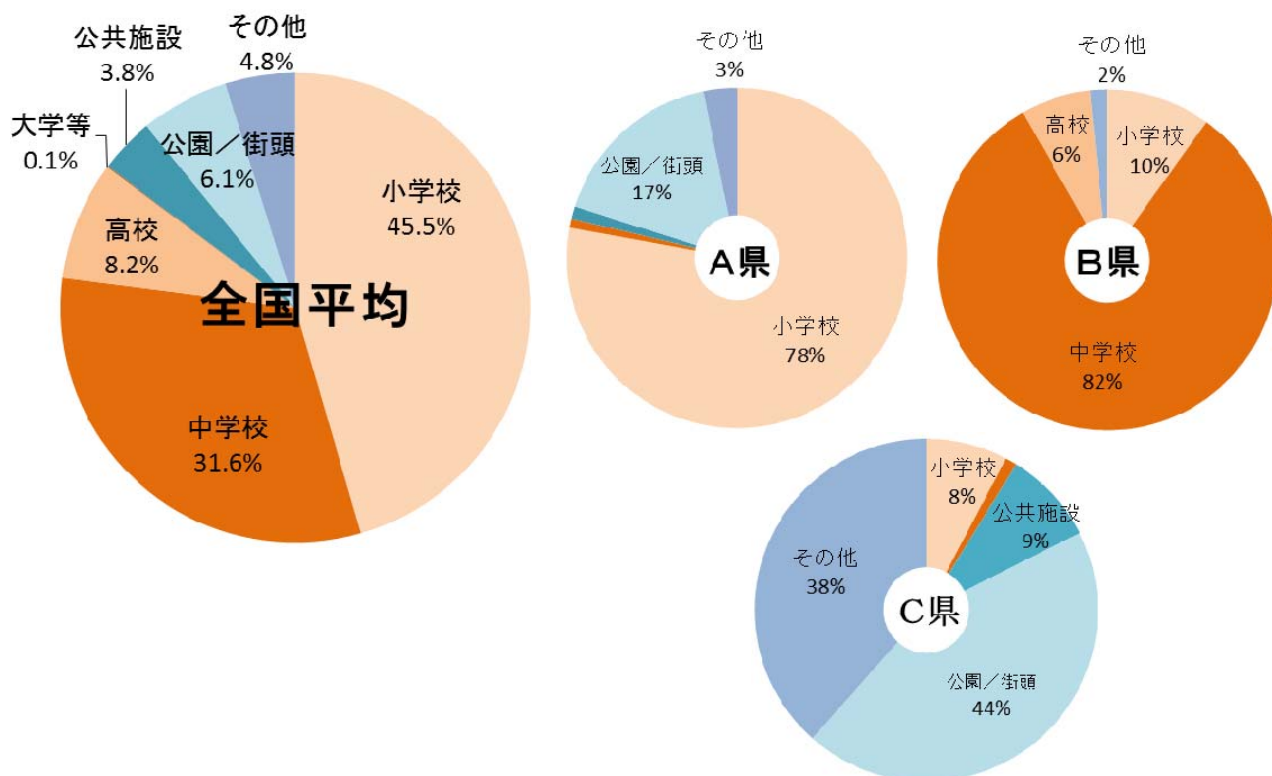


「安全点検講習会」は自転車の整備点検の必要性と安全利用の講習会を学校・警察署・地方公共団体・自転車安全推進団体等が実施する催事会場の 424 箇所で実施し、42,517 名の参加がありました。

「拠点型安全点検」は学校・都道府県警察・地方公共団体・自転車安全推進団体等からの要請を受け、学校・公園・街頭等の 2,858 会場において、要請団体と連携して 338,485 台を点検しました。

【拠点型安全点検での要整備個所の内訳】

実施会場に特徴がある県	ブレーキ	ベル ブザー	リフレ ク尾灯	フレーム 前ホーク	ハンドル	ペダル	車輪 タイヤ	チェーン	変速機	ライト	サドル	錠	その他
全国平均	22.2%	14.7%	5.5%	1.6%	2.6%	0.9%	16.0%	17.4%	1.7%	7.5%	1.1%	3.5%	5.1%
A県	22.9%	12.9%	5.4%	0.5%	2.6%	0.8%	19.8%	11.3%	3.2%	8.2%	1.1%	4.2%	7.3%
B県	17.9%	11.6%	3.9%	3.1%	1.8%	0.8%	11.8%	34.2%	0.6%	4.1%	0.9%	1.6%	7.7%
C県	23.7%	10.9%	5.9%	1.5%	2.1%	2.7%	24.1%	9.8%	1.4%	6.1%	1.2%	6.9%	3.7%



《実施組合(都道府県自転車商協同組合)の所見》平成 29 年度分概略・抜粋

拠点型安全点検

自転車の乗車前の安全点検の重要性を周知し、安全な自転車で交通ルールを守って乗車することは交通事故防止に寄与する有意義な機会である。今後とも継続して実施することが大切である。
自転車事故が多く、学校から依頼されて点検する日時を増やしたり、広い会場で点検したりと関係者の方々が協力的でした。
今年度は年明けに県内の小・中・高校宛に自転車安全点検のアンケートを行い、自転車の安全点検実施をアピールした。その甲斐もあり、学校からの依頼も増え、昨年度より点検会場が増えた。防犯登録がない自転車は1割ほどあった。
高校の自転車は中学時代から同じ自転車を利用している生徒が多いので、要整備車が多い。小・中・高校ともに、空気圧が低いものが目立つ。パンク予防のためにも月に一度は空気を入れることが大切と、生徒さんに伝えてもらった。ベルやライトの不備も多かったが、新車の台数の減少が要因と思う。拠点型の安全点検を通じてみつけた要整備車は、きちんと整備しないと通学許可が出ない学校もあり、点検の意義を感じる。安全に乗って頂くためにも安全点検の普及が大切だと思った
学校、PTA、警察、安全協会など多くの協力のもと終えることができた。
防犯登録なしが多かったので、義務化されていることの周知も今後併せて実施していきたいです。
学校や交通安全協会の協力のもと、安全点検を実施した。要整備箇所の上位はブレーキ、チェーンであった。要整備箇所については整備を促すことが重要であるため、自転車利用者に点検整備の重要性を認識してもらうことが大切であると思う。
実施会場数も点検台数も減っている。大都市圏で実施する学校がほとんどないのが、今後の課題。
児童生徒の減少による統廃合で点検ができる学校が減ってきている。また、点検台数も減少気味である。ただ、本年度は今まで点検を行っていなかった学校からも要請がきているので、今後も地道に進めていきたい。
昨年度より実施場所は増えたが、総点検台数は減っている。新しい自転車が多かったため、要整備車は減っている。
本事業に賛同された学校・公共団体等からの要請を受け、自転車点検を実施したうえで、その場でできる調整・整備を実施した。生徒数の減少により、年々点検台数も少なくなっている。
学校単位で、防犯登録証が貼っていないと、自転車に乗ることができないなど、業者を通して少しずつ普及してきているようだ。
要整備車の割合は、昨年度とほぼ変化がなかった。小中高共にベルがトップ、続いて小学ライト、中学・高校ブレーキが要整備となっている。車輪は空気圧の低いものが多くあった。小学低学年においては、防犯登録貼付が少数であった。
例年通りチェーンとブレーキの整備不良車が多い。年に一度の整備の重要性を学校に説明、児童生徒への指導をお願いしているが、要整備となった自転車を後日、整備・修理に来店する人がすくないので、来店してもらい翌年の要整備車台数を減らすことが課題である。
防犯登録はほとんど貼付されている、タイヤの空気不足が多く見られるが、家庭にポンプが無く、買いっぱなし状況が見られた。
要整備車の割合は昨年度と同様であり、防犯登録未貼付については若干増加している。組合としては、整備及び防犯登録の重要性について保護者会等を通じ、認識を高めていく所存である。
自転車安全点検は定着してきています。しかし、一部の支部の参加となっているので、多くの支部が参加するよう広報していきたい。
ベル、ブザー、車輪、ブレーキの整備が必要な自転車が多かった。
教育委員会の役員に自転車の安全点検の重要性を話し、各学校へ安全点検を実施するよう要請しました。
本年度は従来、小学校4年生のみの点検だったが、小学校3年生にも実施するところがあり、前年度より点検回数が増えた。ブレーキの利きが悪い自転車やチェーンのたるみが目立った。
安全点検をすることで利用者に整備・修理の必要性を伝えることができた。組合員の高齢化により実施できる会場数が減少してきている。
条例が制定されている市ではWロック・ライトも良好。しかし、中学1年では前輪の歪みとカゴの変形、2,3年ではベルト車は自動調整であるが、そうでない自転車はチェーンの伸び及びブレーキ等メンテナンス不良が多かった。高校では交通事故など通学者の安全意識が高くなってはきたものの、まだまだ普及啓発がより必要と感じた。
北部と南部地方の支部の点検実施が多かった。自転車点検が必須となる学校が今後増えていくよう努力したい。
平成 29 年度も、組合員と学校や警察などの団体の方と協力し合い、多くの会場で積極的に自転車の安全点検を実施することができた。
自転車の安全と安心を届けることは、業界の責任と思い、組合事業として取り組んでいる。効果がある。
学校点検の依頼は毎年多くあるが、組合員の減少により点検をする人員の確保が難しくなっている。
昨年度より5会場減という結果になった。要因としては天候不良での中止などが挙げられる
安全点検事業を通し、安全整備について各機関から理解を得て、連携もとれている。毎年実施している地域では学校行事として定着している。
組合により今年度、点検を取りやめたところもあった。全体的に点検数が減少している。
要整備の中でも際立って多いのは、高校生のタイヤであるが、そのほとんどのタイヤは擦り切れて中の白い糸が露出していたり、また、空気がしっかり入っていなかったりしたので、安全乗用のために、学校側へ取替えなどの必要性を強く説明した。
今年度も例年通り、学校・公共団体と連携して自転車の無料点検を惹き起こすことができた。台数は昨年度より少し減少したが、良好車の割合が増えてきているので毎年の点検活動の成果かと思われる。
組合員は地域の小中高校生の自転車を無料で点検していますが、子供たちが持ち込む自転車はほとんどホームセンターや量販店で購入された自転車ばかりだそうです。

<p>当県は平成27年4月1日より「自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」を制定した。条例が制定されると、もっと積極的に自転車点検を行う人が増えると思っていたが、期待外れだった。私自身は自転車通勤しているので、1年に一度の点検は安心のためにも絶対必要と思っている。学校の先生や保護者が“子供のために安全点検を”と積極的な姿勢に変わると、会場数も増えていくものと思う。提出される報告書数は年々減少しており、学校の統廃合は勿論だが、組合員の減少や高齢化等で依頼があっても引き受けられないという現実があり、今後も減少は続いていくだろう。</p>
<p>今年度は年2回のところが増えましたが、生徒数の減少のためか、1会場当たりの自転車の点検台数が少なくなりました。</p>
<p>要整備車では、ブレーキ・ベル・チェーン等の不具合やタイヤの摩耗が多く見られた。</p>
<p>本年度の点検では整備良好車が要整備車に比べ圧倒的に多かった。学校での点検は新年度、夏休み前に行うことが多く、特に小学生には自転車の正しい乗り方を説明しながら点検を実施している。新しい実施場所での安全点検はないが、毎年行っている所の点検の成果は上がっていると思う。</p>
<p>昨年より実施会場は増えましたが、点検台数は減少となりました。組合員の高齢化が進んでおり、夏場の点検作業は難しくなりつつあります。行政からの依頼にどう対応するか大きな課題です。</p>
<p>要整備車が多いため、実施依頼者への注意喚起を行う。</p>
<p>この活動は組合の期間事業に定着しつつあり、組合員の積極的活動により、学校関係者、警察署及び地区交通安全職員を巻き込み、協力を得ながら、自転車の安全利用の促進ときめ細かな指導を行うなど感謝されている。</p>
<p>チェーンの緩みの多さが目立った。また、防犯登録がされていない自転車がまだ多少あるので、無くしていけるよう注意を促していきたい。</p>
<p>春・秋の全国交通安全運動と連動したキャンペーンの一環として、交通対策協議会より交通安全指導の強化並びに各種啓発活動への協力要請があり、各支部では、所轄警察署からの協力依頼を受けて主に街頭での自転車の安全点検整備・交通安全指導を重点に実施、自転車利用者の安全意識の向上と交通ルール周知に努めた。</p>
<p>学校側が交通安全に力を入れている所は整備ができていないが、そうではない学校は要整備車が見つかったも修理をあまりしない。防犯登録は約7%が貼付していない。昨今、自転車事故が多発しているので、より一層の指導が必要です。</p>

店舗型安全点検

<p>点検のみで来店される人がほとんどいないので、お客様集めに（「点検しても良いですか？」と店の方から声を掛けたりして）苦労されているようです。</p>
<p>学校点検をきっかけにお店に来て安全点検を受けてもらったこともあった。また、点検が自転車購入につながり、良かったとの声もあった。</p>
<p>この安全点検をきっかけに、安全点検を一年に一度受けるようになった方がいて、点検の重要性を理解していただけたことが嬉しかった。安全と安心を提供できる安全点検の有効性をより認知していただけるように、さらに活動を続けていきたいと思う。</p>
<p>今年度も実施店舗が少ないので、もっと各店舗に呼びかけ実施店舗数を増やしていきたい。整備した自転車に乗ることの大切さをお客様に説明し、理解していただけた。</p>
<p>店舗型はユーザーと直接話ができるので、点検整備の重要性を認識してもらえるよい機会になる。地道に続けることがユーザーの安全意識の向上につながり、お店にとってもプラスになる。</p>
<p>良好車が増えているという声も聴かれるが、地方になると点検する自転車自体が減少してきた。</p>
<p>主に、修理目的で来店した自転車を点検したので要整備が多い。口頭で伝えるより伝票に要整備をチェックした方が修理を受けてくれるお客様が多いと感じました。パンク修理、タイヤ交換でのお客様が多く、日頃から自分の自転車の状態を気にかけて使用している方が大半でした。</p>
<p>自転車利用者に対して乗用安全意識を高めるため、各自転車小売店において、自転車各部の安全点検を実施し、要整備箇所があれば自転車利用者へ整備を促し、実施した。</p>
<p>例年どおり、秋の全国交通安全運動が始まる前に、安心・安全に自転車に乗ってもらえるように、自転車の点検を実施。</p>
<p>修理で来店した時に点検を行った。要整備車は今年度も車輪が最も多く、ブレーキ、チェーンとなっている。顧客の皆さんにできる限り、安全な自転車に乗っていただけるよう、これからも点検を続けていきたい。</p>
<p>修理で来店した方の自転車を点検することが多いため、要整備車の台数が多くなっている。要整備箇所で、車輪（タイヤ含）の割合が最も多く、次いでチェーン、ブレーキとなっている。未整備のままでは事故に直結する箇所なので、各店舗において整備できる所はその場で整備し、修理が必要な所はその都度お客様に危険性と修理の必要性を説明した。</p>
<p>ハンドルの高さが身体に合っていないかったり、空気圧が低かったり、自転車の安全に対する意識の低さが多く見られた。買ったまま、乗りっぱなしの自転車がも多く、整備を必要とする認識も少ない。</p>
<p>タイヤの空気圧が少ない自転車が多く見られた。</p>
<p>タイヤ、ブレーキ等安全に関わる修理箇所が結構あり、注意した。点検の大切を実感し、指導した。</p>
<p>高齢社会となり自転車の安全性を求めているため、点検の重要性をユーザーに訴えていきたい。</p>
<p>個々に安全点検について説明することができた。</p>
<p>タイヤ、チューブ等摩耗による交換が多く見受けられ、全体的に安全に対する意識低下が目立ったが、中には「店舗型」が周知され、家族分の自転車点検が持ち込まれるケースもあった。</p>
<p>店舗での自転車の安全点検を実施することで、自転車の安全な利用とマナーアップにつながればと思います。</p>
<p>事業継続の結果として、要整備車が減少し、自転車利用者へ安全を提供できている事業であり、継続を望みます。</p>
<p>自転車利用者の安全意識を高めるため、要整備箇所があれば、整備を促し実施した。店舗型は直接お客様に点検整備の大切さを認識してもらえる良い機会になった。</p>

<p>ここ数年、店舗型安全点検が実施できなかつたが、久々に実施できた。また、店舗での実施方法が分からないという意見が多かつたので、周知を図り、実施店舗数の増加を目指したい。</p>
<p>例年通り、2店舗で行った。点検数は減少している。</p>
<p>伝票の記入に関して理解してもらえない店舗が数件あつたが、後はほぼ間違いなく記入されていた。多数の店が安全点検に参加でき、自転車の点検の大事さを痛感できました。今後もこの活動を推進していきたいと思ひます。</p>
<p>組合員は自転車の細かい修理が得意でも、報告書の伝票に記入する簡単な作業を面倒と感じ、最初予定していた店舗も結局途中で止めてしまいました。売り上げにつながるための宣伝と思ひて、のぼり旗を立て、お客様に声を掛けることをしていけば、成果がでてくるのではないかと思ひますが、なかなか難しいところがあります。</p>
<p>毎日乗っている自転車を点検し、整備することはユーザーの努めであると思ひている。車検と同じ感覚で自分の愛車を整備することは、長時間乗れることにつながるものと思ひている。整備不良として多いのが、ブレーキ、ベル、プザー、車輪、チェーン等だが、どれも事故につながる要因の一つである。ユーザーの皆さんが気軽に店舗に足を運んでいただくようになれば、コミュニケーションがとれ、店もアドバイス等声を掛けやすくなるかもしれないと思ひますが、敷居が高いと敬遠されているのが現状だ。店舗型の報告書と伝票の作成は簡単なものと思ひるので、もっとたくさんの組合店に参加していただきたいと思ひますが、面倒と思われる方が多いのか、増えないのが残念だ。</p>
<p>本年度も同じ店舗が大体同じ時期に実施できました。店舗によっては、定期点検的に来店するお客様が来られるようになった。異変を感じる前に点検に来られるようお願いした。</p>
<p>要整備車ではタイヤの空気圧不足や摩耗が多く、安全走行のための点検に対する認識不足がまだまだあるように感じられた。</p>
<p>支部、店舗によって点検した台数は異なるが、店舗で点検することで整備・修理につながり、安全な自転車の提供がその場でできた。定期的に点検することの重要性が浸透していないと感じる。整備することで安全な自転車の利用をお願いした。</p>
<p>毎年ですが、整備不良車が多いです。不良箇所を指摘しても修理しないユーザーが多くあつたと聞きました。</p>
<p>昨年実施した店舗を中心に取り組みました。どの店舗も点検実施に前向きであり、特にブレーキの調整、チェーンの調整などを中心に行った。</p>
<p>点検を実施した際に、不良箇所があるとその場ですぐに修理できることが多いので、お客様には喜んでいただいている。</p>
<p>昨年に引き続き、警察本部より協力依頼があり、11月に組合員店舗での一斉点検を実施した。今年度は参加店舗数もさらに増加し、自転車条例や交通ルールのチラシを配布するとともに、日常の点検・整備の重要性について自転車乗用者の認識を深めるため、店頭での丁寧な説明にも努めた。依然として、タイヤの空気圧不足、ブレーキの不良、チェーンのたるみ等が目立つため、今後も各店舗での安全点検・整備を実施し、地道な啓発活動を継続することが望まれる。</p>

安全点検講習会

<p>小中学生、高齢者にはヘルメットの着用を呼びかけた。自転車には点検と整備が重要で、交通ルールを順守して交通事故に遭わない安全運転をするように啓発した。</p>
<p>小学校で自転車教室を開催。交通ルールを説明し、実際に自転車の体験をしてもらった。自転車点検の重要性を伝えることができた。今後の自転車点検の普及につなげたい。</p>
<p>小さいお子さんの乗り方教室では親御さんに向けて、安全点検の重要性を説明させて頂いた。サイクリング大会の会場では、公道を走る際の運転マナーや年1回の安全点検の必要性をお話させていただいた。高額な損害賠償が発生する自転車事故も多いこと等の内容に、大会参加者の関心が高かつたように感じた。</p>
<p>学校、市区町村、交通安全協会などの協力により実施することができた。自転車の乗り方を実技指導しながら講習した。乗る前の点検の重要性について話した。</p>
<p>交通安全協会や幼稚園の協力のもと、小学生や幼稚園の保護者を対象に講習会を実施した。小学生には点検整備について分かり易く話をした。幼稚園の保護者には自転車の安全対策に関する話をした。点検整備の重要性を認識、安全意識の向上につながればと思う。</p>
<p>熱心な市町村だけが、取り組んでいる。命に係わる交通ルールを周知する必要性をもっと発信していかなければと感じる。</p>
<p>安全協会が市のシルバークラブに呼びかけ実施しているが、参加者が減少している。募集の仕方に苦慮している現状である。</p>
<p>組合の支部長が講師を務め、安全確認時の注意点や自転車の基本的な点検事項などを指導した。開催した町は、初の高齢者向け自転車教室ということで、交通事故減少に効果を得ている。</p>
<p>自転車の安全乗用の向上を図るため、主に学校における各種催事の要請に協力し、自転車の正しい乗り方や交通ルール、マナー等を指導した。学校としても、積極的に取り組む姿勢が見られた。</p>
<p>自転車の正しい乗り方、ルール等を指導することにより、自転車事故が少なくなり、特に老人の事故が少なくなるよう力を入れて指導している。</p>
<p>今年度実施した会場は全て、毎年講習会を実施している。学校や地元の安全協会と連携しやすく、児童生徒も学校行事の1つとして真剣に取り組んでいる。ただ、学校の担当者が変わり、教師一人で実施し、終了していたケースもあつたので、今後は密に連絡を取り合つて実施していきたい。</p>
<p>自転車事故は被害者に留まらず、一瞬の油断から重大な人身事故の加害者として本人はおろか、保護者の人生を暗転させてしまう。道徳観念とは幼児期からの取組が重要であり、29年度実施11校中10校が小学校対象であることから、将来の自転車交通安全の礎として期待をもてると思ふ。</p>
<p>学校主催で行うサマーキャンプで、自転車の乗り方教室を行いました。みんな真剣に聞いていましたが、事故にあわないよう願ひます。</p>
<p>グラウンドや体育館、学校周辺道路などで自転車走行練習を行い、一時停止で左右だけでなく、前後確認もすることや交差点、曲がり角で注意すること、また、ブレーキのかけ方なども指導し、交通安全への意識を高めることができた。</p>
<p>交通ルールを守つて走行するよう、ヘルメットの着用、横断歩道の渡り方などを指導した。</p>

<p>自転車点検の必要性と点検の仕方を説明し周知できた。また、整備して乗用することが安全につながることを伝えた。</p>
<p>小学生に自転車の安全点検、交通安全について勉強してもらった。</p>
<p>先生の号令で全員が声を上げて教科書を反復2回、2班に分け実施。自転車走行訓練前に、コンプレッサー付の車を組合員が持ち込んで自転車の空気圧の調整を学年毎に実施したが、時間配分の調整がうまくできず、手間取った。</p>
<p>多数の方が「自転車マナーアップ教室」に参加でき良かったと思う。</p>
<p>自転車業界の安全と安心利用の啓発活動として有効な事業であり、自転車商協同組合の地位向上につながり、今後も継続していき事業と考えます。</p>
<p>交通ルールや安全な乗り方の指導を会場で実際に自転車に乗り、練習することができた。親子の参加もあり、安全意識を深めることができた。</p>
<p>近年、取り上げられるニュース等の影響で、自転車の交通安全に対する関心に高まりを感じるが、開催する講習会場が固定化されつつあることが、今後の課題である。</p>
<p>学校単位でいつも講習会を実施している地域では、恒例の行事として定着している。小学校では校庭にて実際に自転車を使用して指導を行っている。中学校ではパネル等を使用して屋内で座学形式により講習を行っている。</p>
<p>小学校では低学年と高学年とに分けて指導する必要がありました。低学年はDVDで交通ルールの講習及び横断歩道での安全確認等を実施、高学年は自転車による交通安全講習を実施指導しました。毎年、安全指導を実施し、地域に貢献することができている。</p>
<p>講習会に参加している子供達は真剣だ。交通安全協会、警察官の方々、保護者、学校の先生や組合員で自転車の点検だけでなく、講習会を行ってあげれば、大人が子供達の安全を願っていることが子供達に伝わると思う。</p>
<p>今回初めて、支部で実施した安全点検講習会報告書を提出した。毎年依頼を受けて実施していたそうであるが、もっと早くに気が付けばよかったと悔やまれる。小さい頃からの安全教育は繰り返し行うべきだと考える。</p> <p>また、交通安全協会が主催している自転車安全教育指導員養成講習会は組合から理事長を含め、3名がスタッフとして出勤、2名が受講している。理事長が講話を行った。いずれにせよ、受講された方はルールやマナーを遵守し交通安全啓発活動の一翼を担っていただきたい。</p>
<p>地域の警察に交通安全講習会を行って頂いた。また、整備不良自転車を見せて、安全点検の大切さと共に、事故のない安全な乗り方の推進に努めた。</p>
<p>自転車の交通ルールや安全点検の内容について説明を行った。講習会では、定期的に点検し、不具合のあった箇所をすぐに整備することの重要性を毎回伝えている。</p>
<p>昨年とほぼ同じくらいの参加人数となった。点検の意識が市民に普及するよう組合も協力する。</p>
<p>主に子供と高齢者の交通事故防止を重点項目とした交通安全教育事業として実施し、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践や自転車の点検整備に関する講習を実施した。今後も自転車利用者の安全意識の向上と点検整備の励行の重要性に関する理解を深めてもらい、さらに自転車の安全利用の推進に努めたい。</p>

以 上